



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

住民の情報収集に関するアンケート結果

令和5年3月22日

国土交通省 近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所

アンケートの概要

■ アンケートの目的：野洲川及び瀬田川の沿川住民の水害に関する情報収集手段等の状況を把握し、住民への情報発信のあり方を検討するための参考資料とする。

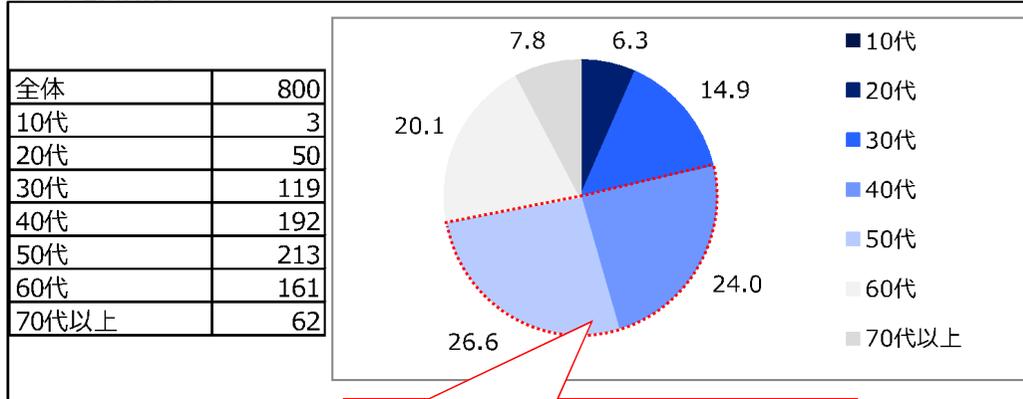
■ 8市を対象にWebアンケート形式で令和4年12月に実施し、各市で100サンプルを回収

■ 以下の項目について、アンケートを実施

- ① 平時の水害に対する情報収集手段とその理由 (Q3~Q19)
- ② 避難時の情報収集手段とその理由 (Q20~Q26)
- ③ 避難判断のトリガーとする情報とその入手方法 (Q27~Q32)
- ④ 防災活動への取組経験と行政活動の認知度 (Q33~Q39)

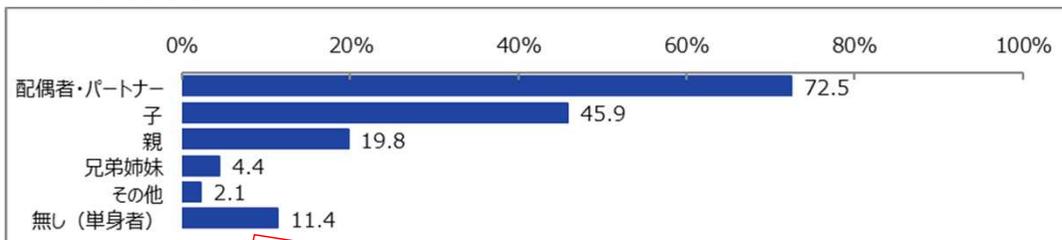
項目	内容
対象市	大津市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市
調査方法	Webアンケート
サンプル	800人(各市で100名を対象)信頼度95%
実施期間	令和4年12月

年齢構成



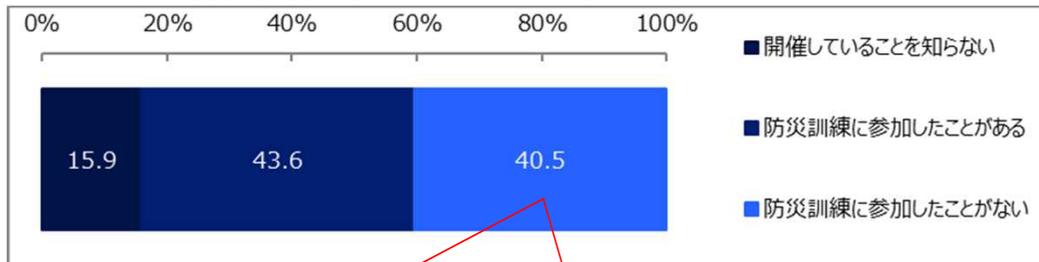
40代、50代が多く合計で約51%
次いで、60代、30代となっている

Q1 同居家族



単身者は約11%と少なく、誰かと同居している回答者が多い

Q2 地域の防災訓練に参加したことはありますか



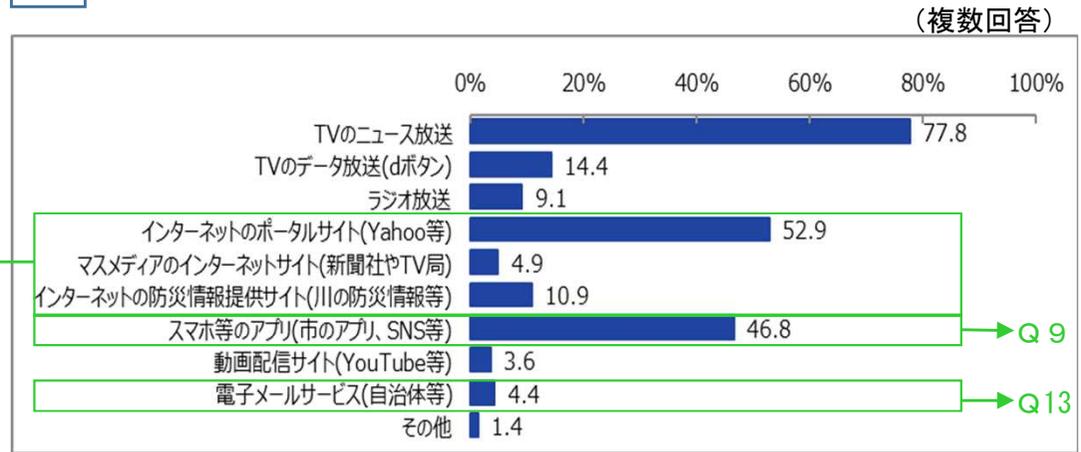
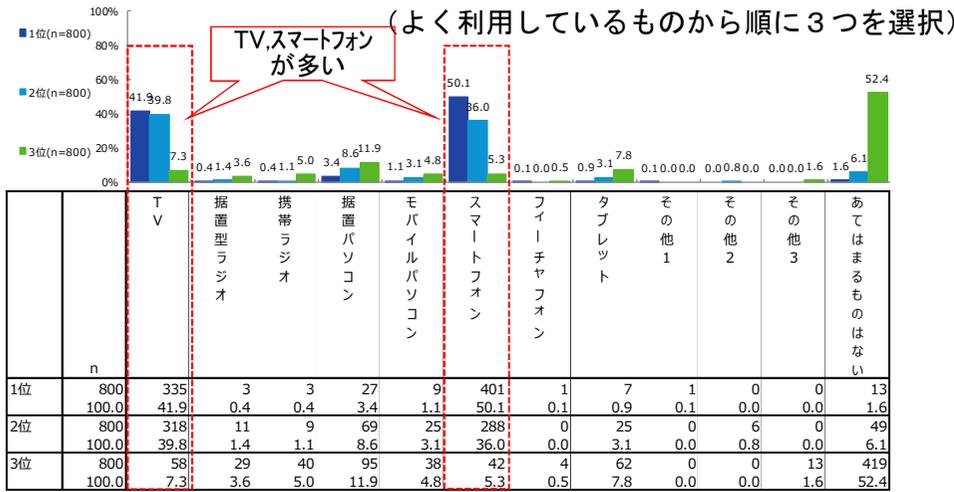
防災訓練を開催していることを知らない人は約16%、
訓練に参加したことがない人は約41%である

① 平時の水害に対する情報収集手段とその理由

- Q3の結果から、普段の情報収集の1位はスマートフォンが約50%、TVが約42%と多く、Q4から、入手先のメディアはTVのニュース放送、インターネットのポータルサイト、スマホ等のアプリが多い。
- 具体的に利用しているサイトやサービスはYahooが圧倒的に多く、川の防災情報などの国、県、市の情報提供の利用は少ない。
- Q6の結果から「情報の信頼性が高い」、「操作がしやすい」、「全体の見た目がすっきりして分かりやすい」ことがサイトを選んだ理由で多い。

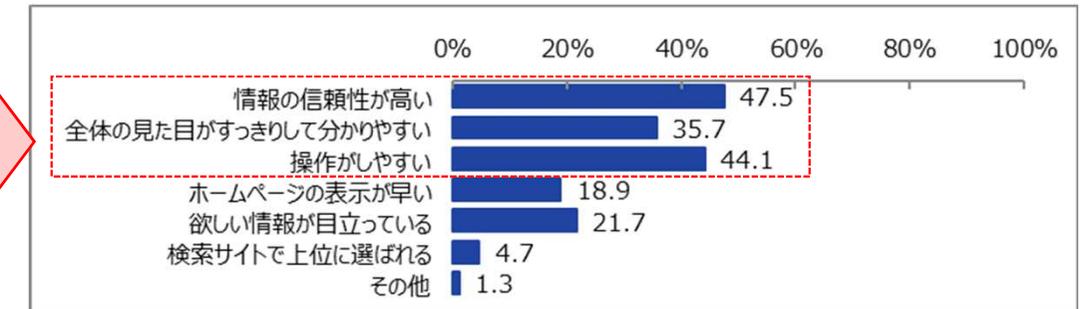
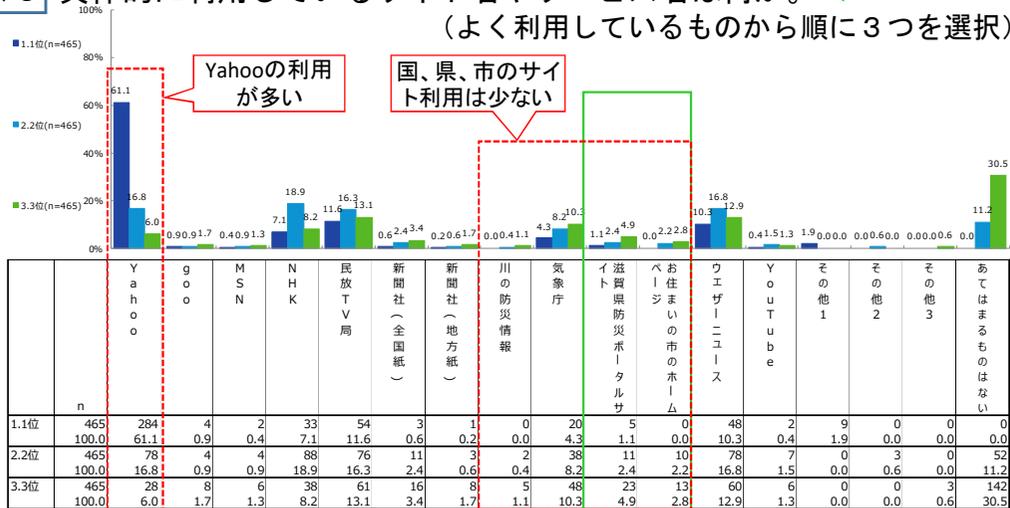
Q3 普段、天気予報や気象情報を入力しているデジタル端末は何か。

Q4 普段、天気予報や気象情報を入力しているメディアは何か。



Q5 具体的に利用しているサイト名やサービス名は何か。

Q6 Q5のサイトを選んだ理由は何か。

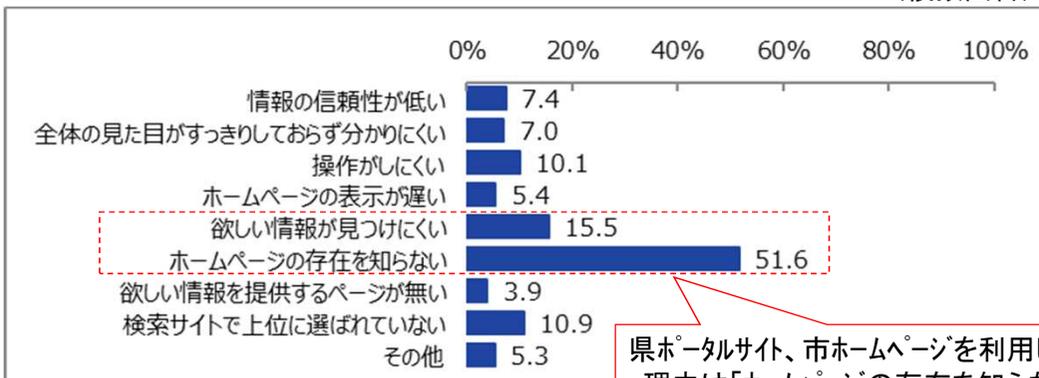


Q7

① 平時の水害に対する情報収集手段とその理由

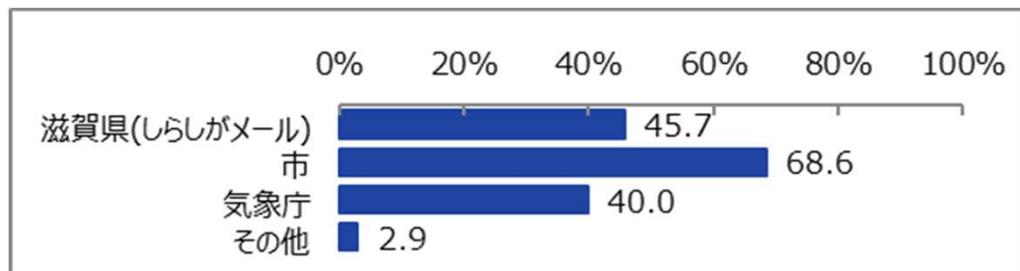
- Q7、Q8の結果から、滋賀県のポータルサイトや市のホームページを利用しない理由は「ホームページの存在を知らない」ことが圧倒的に多く、「欲しい情報が見つげにくい」や「操作がしにくい」などの理由も挙げられており、「ホームページの知名度を上げる」「情報を見つけやすくする」ことが利用するためには必要と考えられている。
- Q13の結果から、市の電子メール、しらがメール、気象庁の順に利用されている。ただし、Q4で電子メールサービス（自治体等）を選択した人は4.4%と少なく、利用者の人数は限定されている。

Q7 Q5（天気予報や気象情報を入手しているサイト）で**滋賀県ポータルサイト、お住いの市のホームページ**を利用しない理由は何か。
（複数回答）



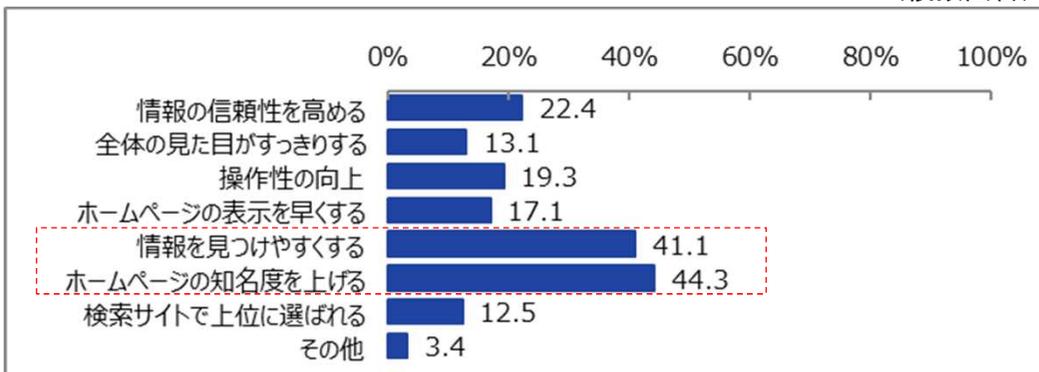
県ポータルサイト、市ホームページを利用しない理由は「ホームページの存在を知らない」「欲しい情報が見つげにくい」が多い

Q13 Q4（天気予報や気象情報を入手しているメディア）で電子メールサービス（自治体等）を選択した方は具体的に利用しているアプリは何か。
（よく利用しているものから順に3つを選択）



Q8 どうすれば、滋賀県ポータルサイト、お住いの市のホームページを利用すると思うか。

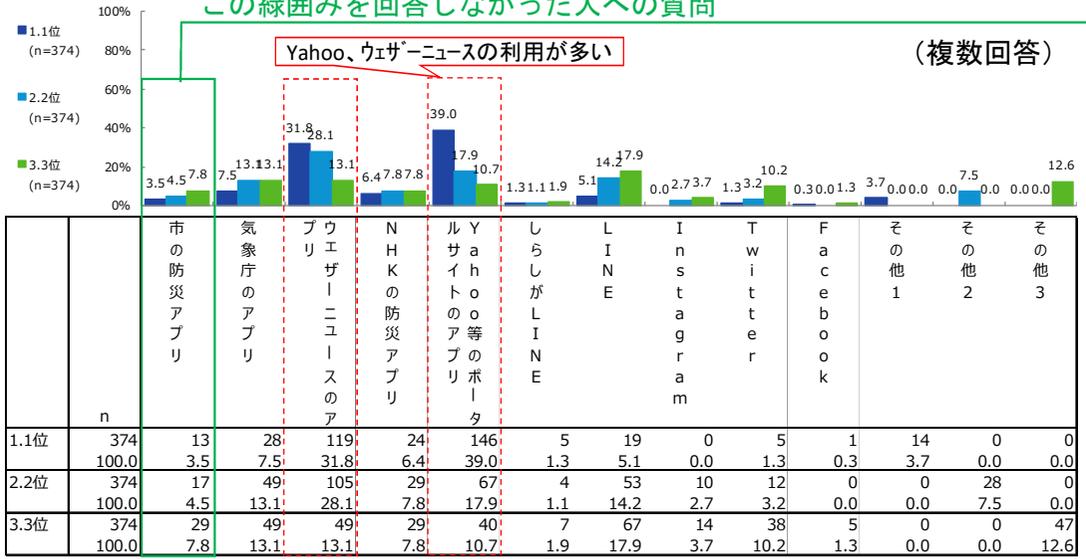
（複数回答）



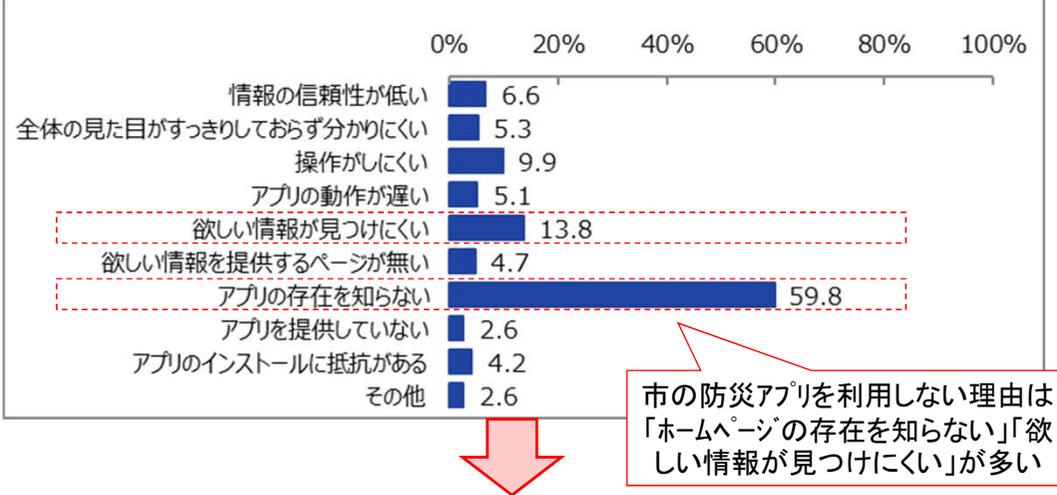
① 平時の水害に対する情報収集手段とその理由

- Q9の結果より、ポータルサイトとしてYahoo(Q5)とウェザーニュースのアプリが多く利用されていることから、WEBサイトの利用とアプリの利用は関連性があると考えられる。
- 操作がしやすいことや情報の信頼性が高いことが、そのアプリを利用する理由として多く回答されており(Q11)、市のアプリを利用しない理由の多くが、存在を知らないことであり、知名度を上げることや情報を見つけやすくすることが利用につながると考えられる。

Q9 Q4(天気予報や気象情報を入手しているメディア)でスマホ等のアプリ(市のアプリ、SNS等)を選択した人方は具体的に利用しているアプリは何か。
この緑囲みを回答しなかった人への質問

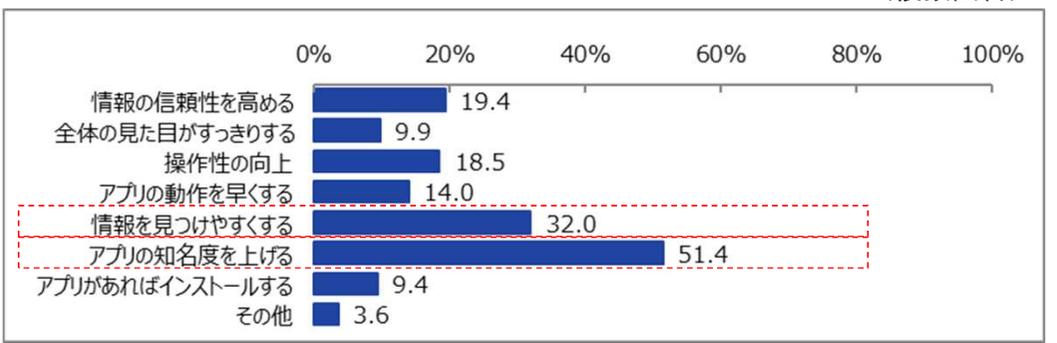


Q11 Q9(スマホ等のアプリを利用している人)で市の防災アプリを選択しなかった理由は何か。(複数回答)

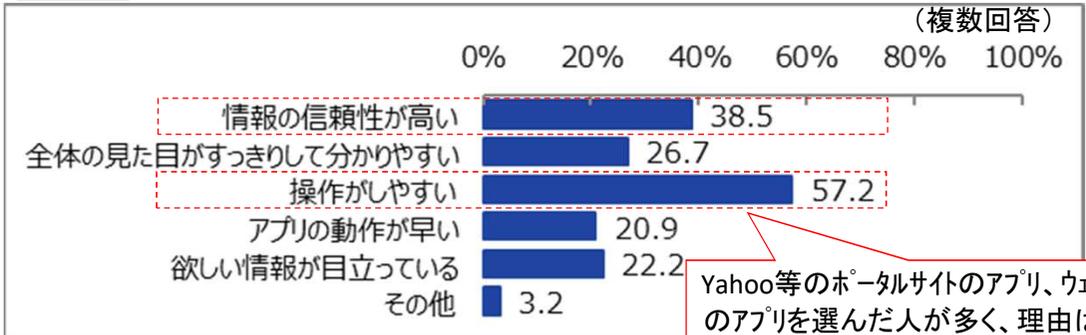


市の防災アプリを利用しない理由は「ホームページの存在を知らない」「欲しい情報が見つけにくい」が多い

Q12 Q9(スマホ等のアプリを利用している人)で、どうすれば市の防災アプリを利用するか。(複数回答)



Q10 Q9のサイトを選んだ理由は何か。(複数回答)

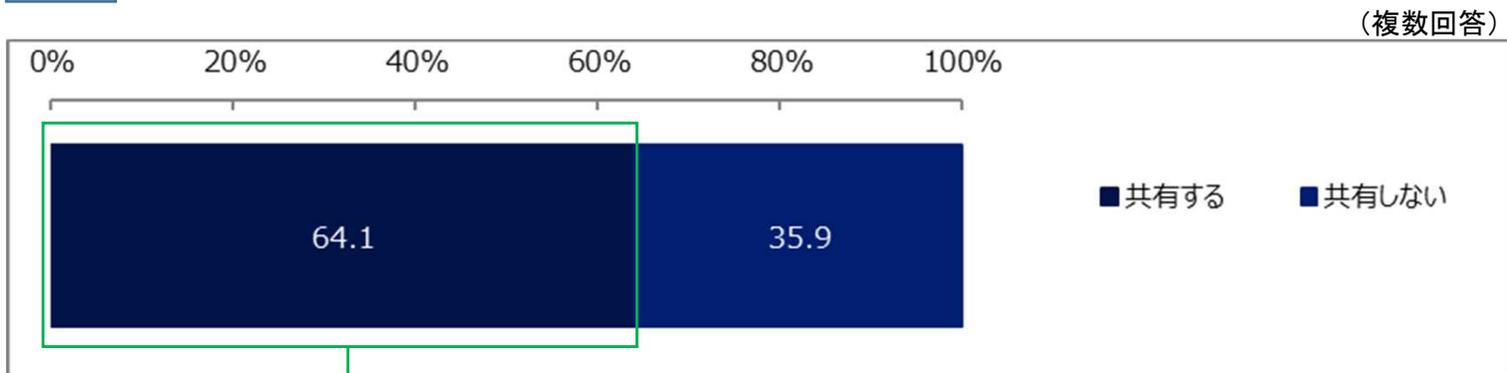


Yahoo等のポータルサイトのアプリ、ウェザーニュースのアプリを選んだ人が多く、理由は「操作がしやすい」「情報の信頼性が高い」が多い

① 平時の水害に対する情報収集手段とその理由

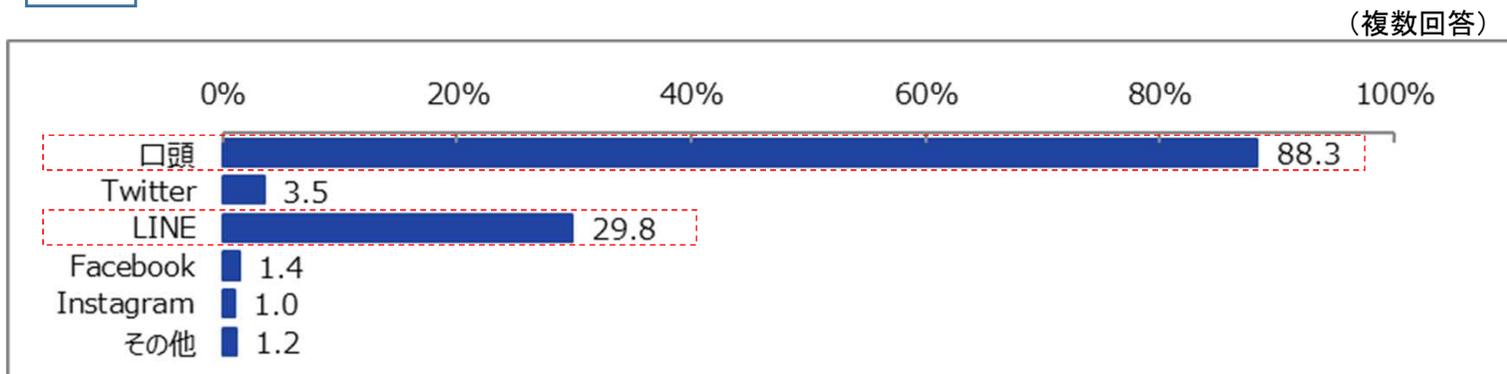
■ Q14、Q15の結果より、約64%が家族や知人と情報共有しており、口頭による情報共有が圧倒的に多い。これは回答者のうち単身者が約11%（Q1）であり、多くが同居世帯であるためと考えられる。口頭に次いで多いのはLINEである。

Q14 平常時に家族や知人と天気予報などの情報を共有するか。



情報を共有する場合の方法

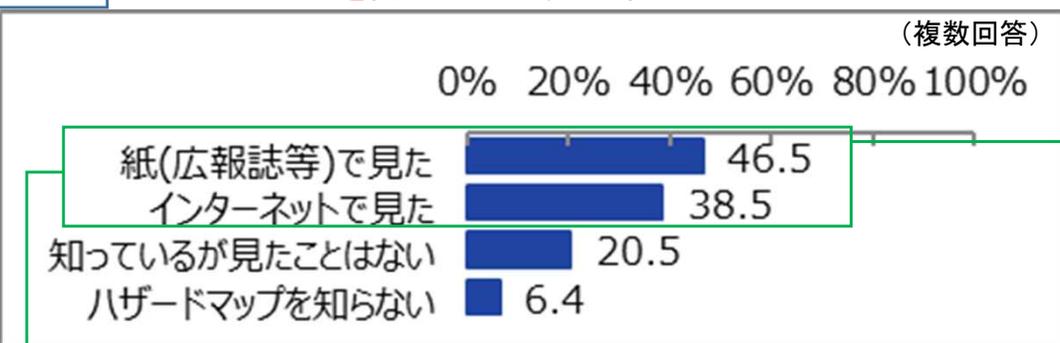
Q15 Q14（時情報の共有）で情報共有の方法は何か。



① 平時の水害に対する情報収集手段とその理由

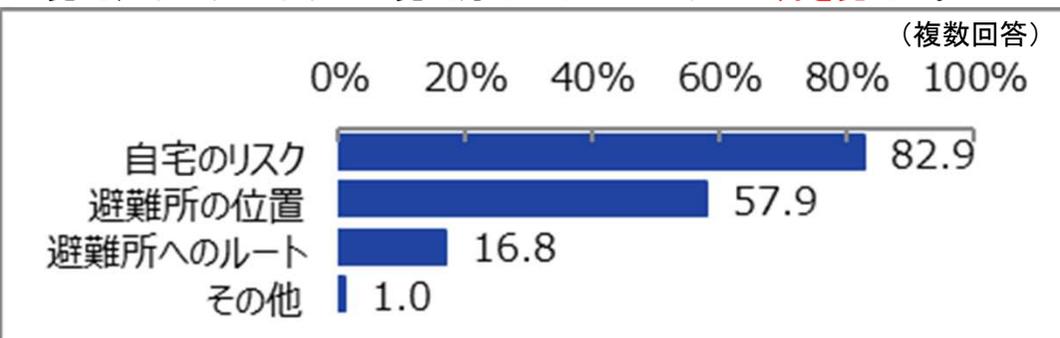
- Q16の結果より、ハザードマップを見た媒体は、約47%が紙(広報誌)、約39%がインターネットである。
- ハザードマップで見る内容は、自宅のリスクが約83%、避難所の位置が約58%と多く、避難所へのルートを確認した人は約17%である。
- Q18、Q19の結果より、約58%の人がハザードマップで知った情報を誰かと共有しているが、情報共有しない理由の過半数は、人に伝えるほどの情報ではないと思ったからである。

Q16 ハザードマップを見たことがあるか。

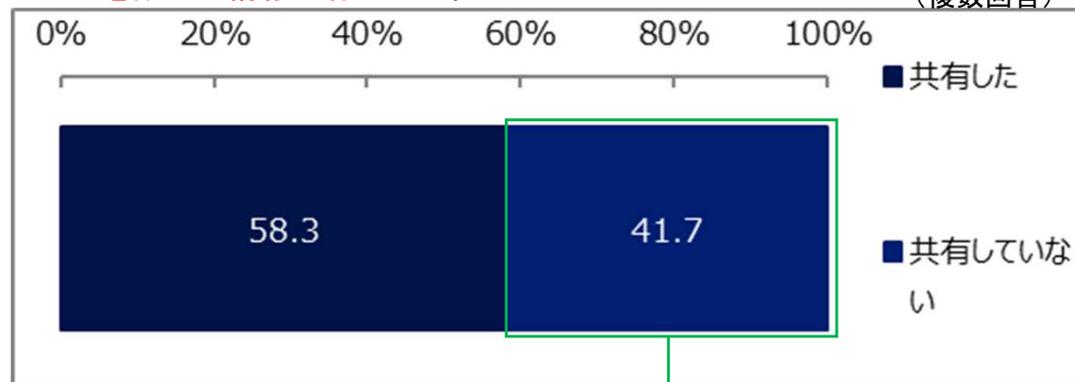


この緑囲みを回答した人への質問

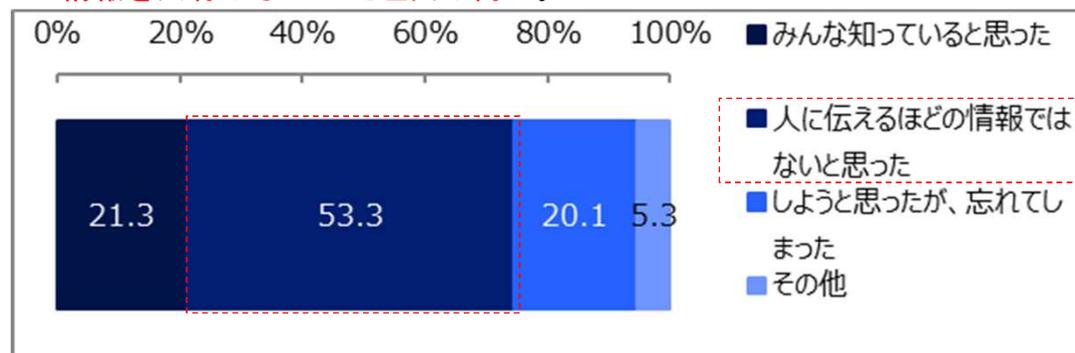
Q17 Q16 (ハザードマップを見たことがあるか) で紙(広報誌等)で見た、インターネットで見た方はハザードマップで何を見たか。



Q18 Q16 (ハザードマップを見たことがあるか) で紙(広報誌等)で見た、インターネットで見た方はハザードマップで何知った情報を誰かと情報共有したか。



Q19 Q18 (ハザードマップの情報共有) でハザードマップで知った情報を共有しなかった理由は何か。

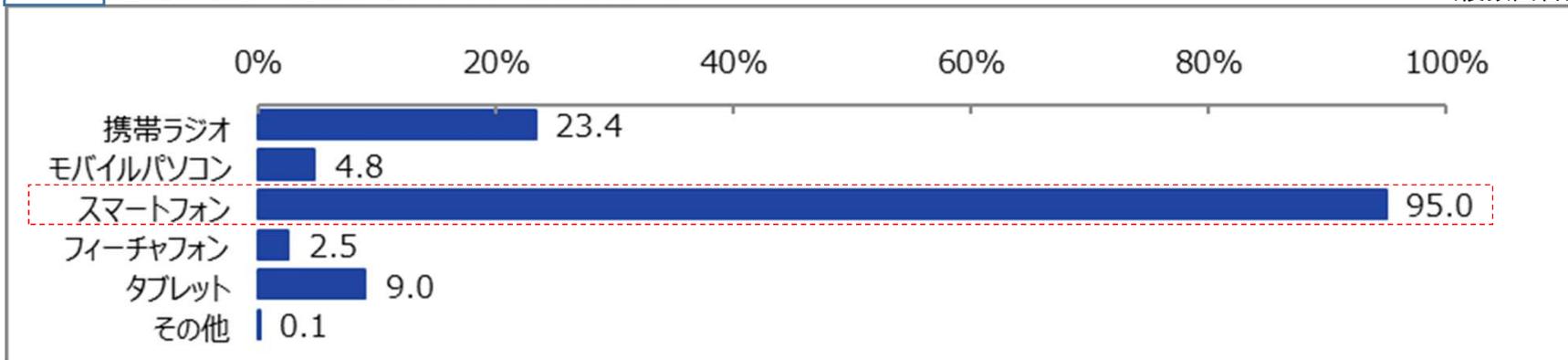


② 避難時の情報収集手段とその理由

- Q20の結果より、災害が発生して避難する際に携帯するデジタル端末はスマートフォンが圧倒的に多い。
- 携帯ラジオは、平時の情報入手としての利用は少ない（Q3、回答1位で1%未満）が、避難時に携帯するとの回答は約23%と増えている。
- Q21の結果より、避難時に知りたいと思う情報は、今後の天候の推移、災害の発生情報、停電の情報、道路の冠水情報、避難所の空き状況が多い。
- 一方、河川水位、河川のカメラ情報、ダム・堰の放流量といった河川に関する情報を知りたいと思う回答は少なく、避難時には避難生活に関する情報が望まれている。

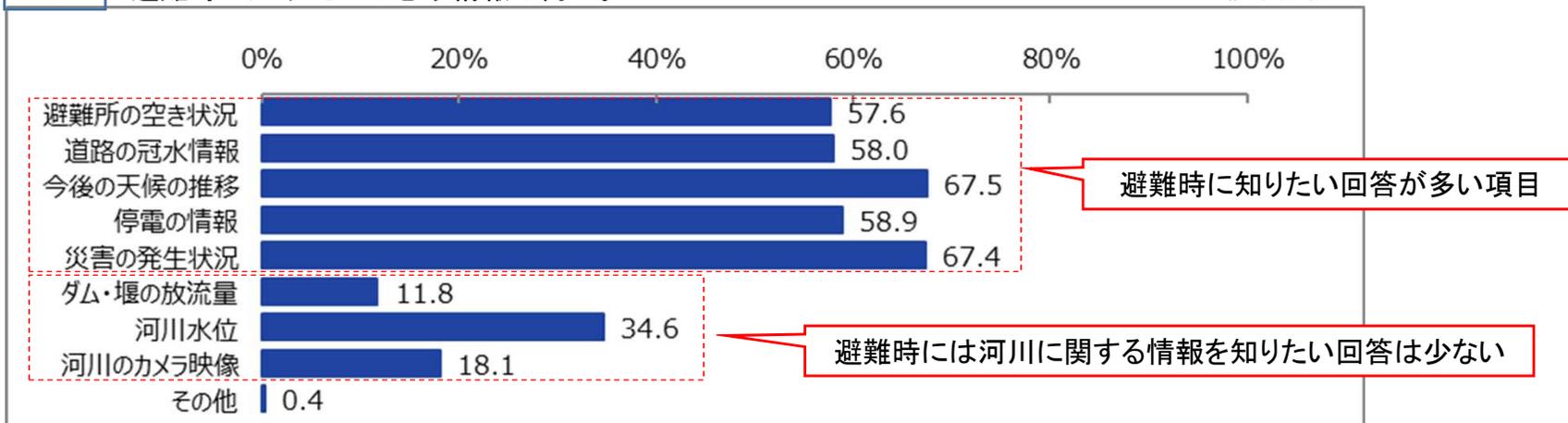
Q20 避難する際に携帯するデジタル端末は何か。

(複数回答)



Q21 避難時に知りたいと思う情報は何か。

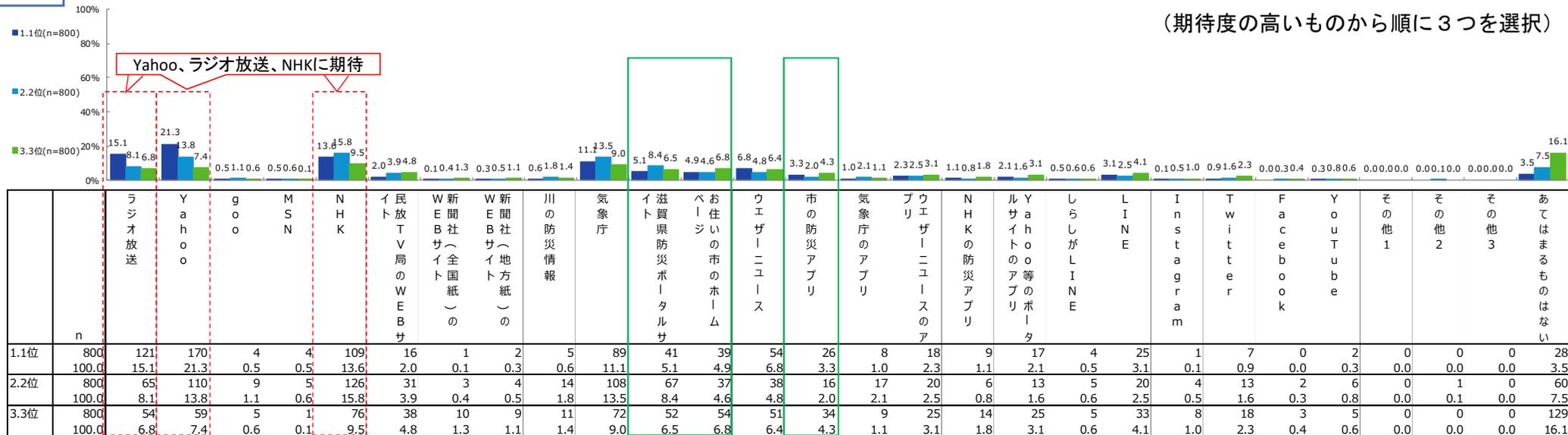
(複数回答)



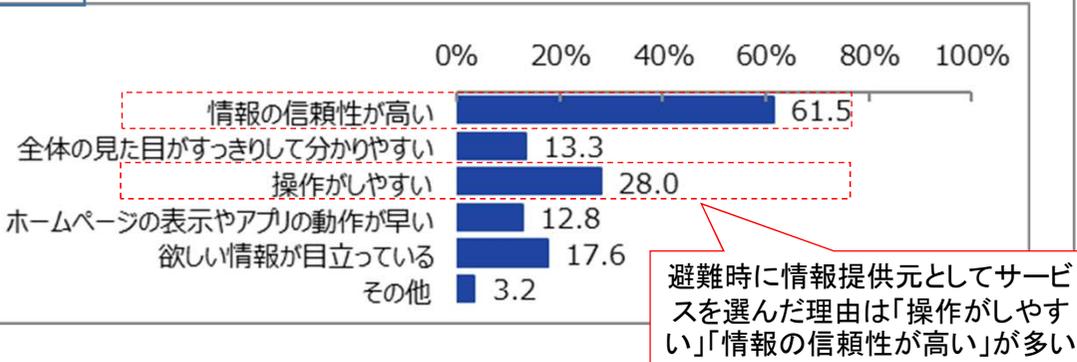
② 避難時の情報収集手段とその理由

- Q22の結果より、一番期待するサービスと二番目に期待するサービスではYahoo、ラジオ放送、NHKが上位3位を独占して、気象庁が4位である。三番目に期待するサービスはNHK、気象庁、Yahooの順番であることから、YahooとNHKとした回答が総合的に多い。
- 平時の情報収集はYahooの回答が圧倒的であったが(Q5)が、避難時はYahooの回答が減り、滋賀県や市のホームページの回答が増えている。市の防災アプリも平時よりも回答数が増えており、避難時は自治体へ期待していることが分かる。
- Q23の結果より、そのサービスを選んだ理由で情報の信頼性が高いとの回答が平時の約48% (Q6) から約62%に上がっており、避難時にはより情報の信頼性が重視されている。
- Q24の結果より、県ホームページや市のホームページ・アプリを利用しないのは、その存在を知らないとの回答が多い。

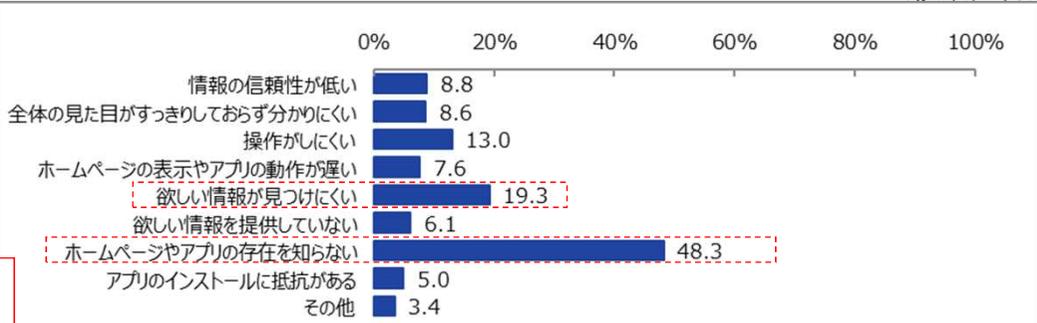
Q22 避難時に情報提供元として期待するサービスは何か。



Q23 Q22で、そのサービスを選んだ理由は何か。(複数回答)



Q24 Q23で滋賀県ホームページ、お住いの市のホームページ、市の防災アプリを利用しないと思う理由は何か。(複数回答)

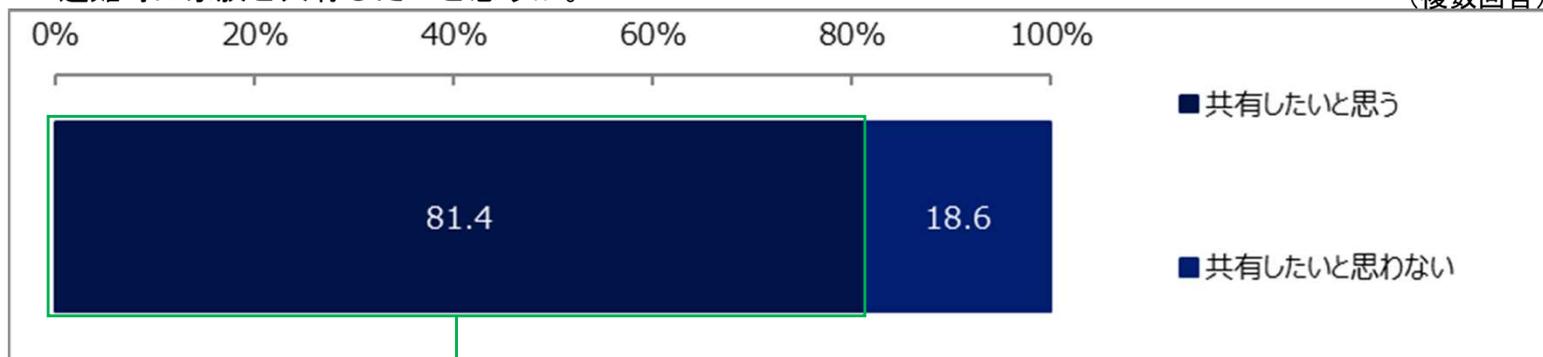


② 避難時の情報収集手段とその理由

- Q25の結果より、避難時に知りえた情報を家族と共有したいと思うが約82%と圧倒的に多い。
- Q26の結果より、その伝達方法は口頭が約81%と最も多く、デジタルサービスではLINEが約56%と多い。

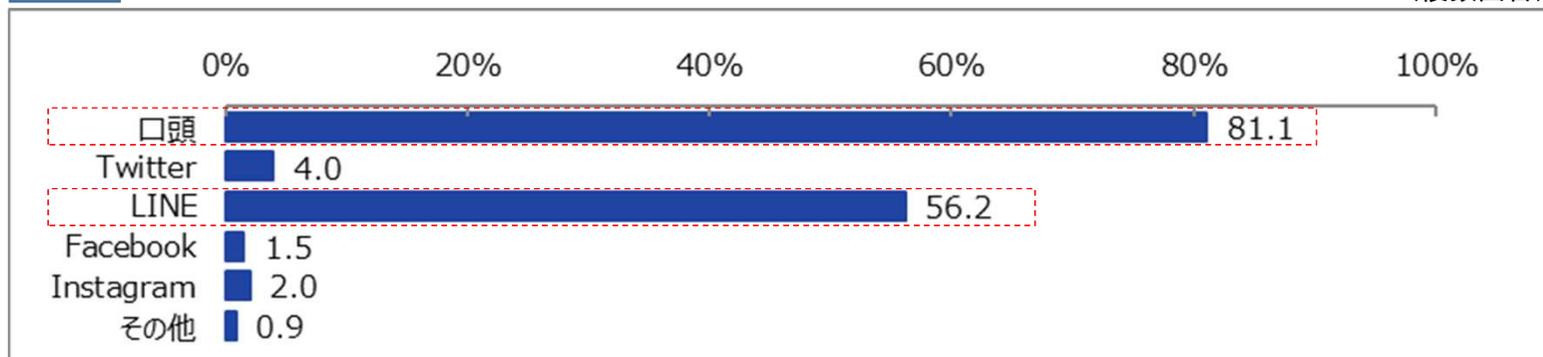
Q25 避難時に情報提供元として期待するサービスから知りえた情報を、避難時に家族と共有したいと思うか。

(複数回答)



Q26 家族と共有したいと思う場合の方法は何か。

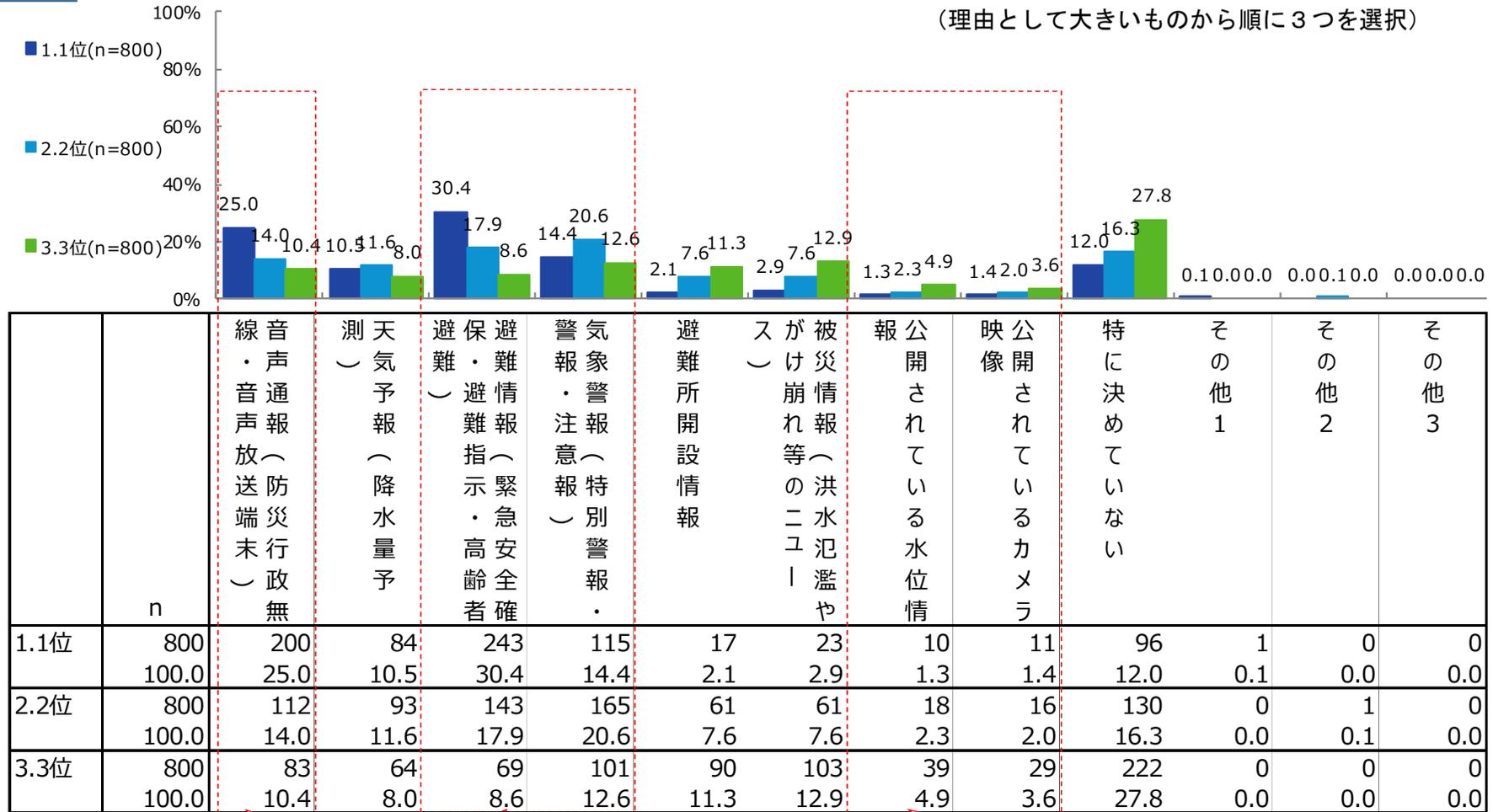
(複数回答)



③ 避難判断のトリガーとする情報と入手方法

- Q27の結果より、避難情報、音声通報、気象警報が多い一方で、公表されている水位情報やカメラ映像等の河川に関する公開情報を避難判断のトリガーとする回答は少なかった。
- このことから、公表されている河川に関する情報から避難の判断を行う人は少なく、避難指示や警報、防災行政無線など行政からの指示をトリガーとする人が多いと考えられる。
- また、特に決めていない回答も多く、住民の避難行動を促すための取組が必要である。

Q27 避難を開始するきっかけとする情報は何か。



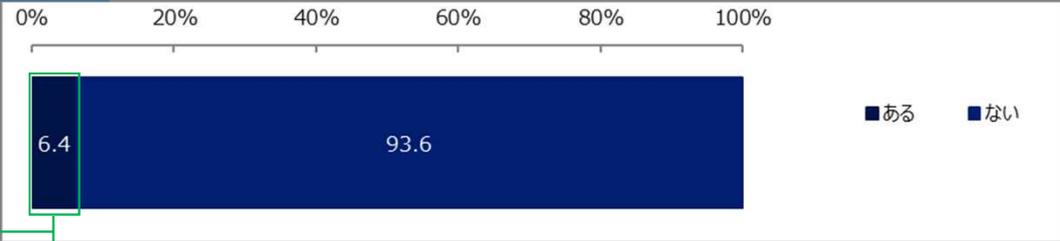
避難時のトリガーのきっかけとなる回答が多い項目

河川に関する情報は避難時のトリガーのきっかけとなる回答が少ない

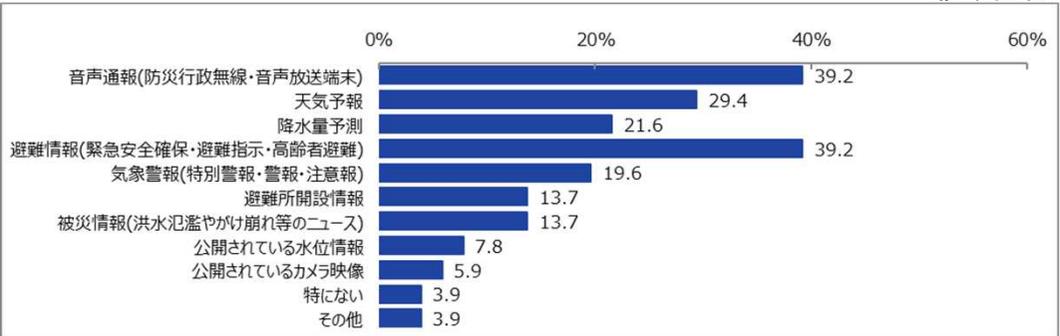
③ 避難判断のトリガーとする情報と入手方法

- Q28、Q29、Q30の結果より、過去に避難行動をしたことがある人は約6%と少ないが、その際の避難判断のきっかけとなった情報は、音声情報や避難情報が多い。また、情報を入手した方法は口頭が最も多く、防災行政無線やTVのニュース放送が続く。
- Q31、Q32の結果より、インターネットでの情報はYahooからの入手が100%であった。アプリではウェザーニュース、Yahoo等のポータルサイト、LINEが100%と回答されているがアプリを情報の入手先とした人が約6%（Q30）と少ない状況である。

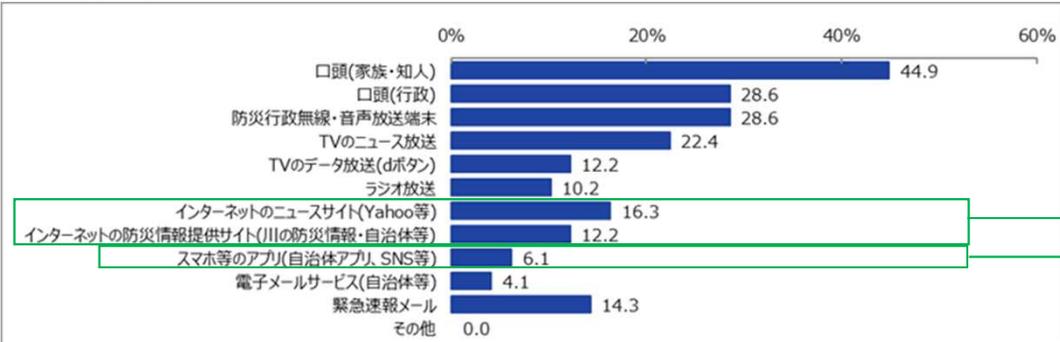
Q28 過去に避難行動をしたことがあるか。



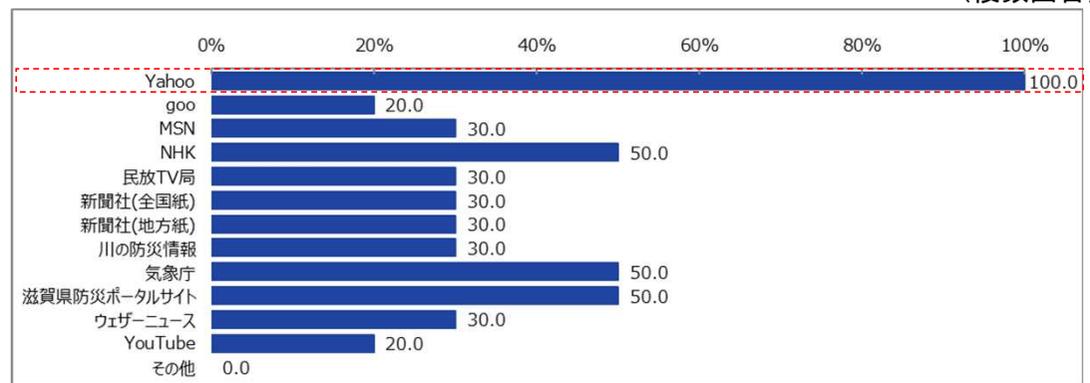
Q29 避難行動をしたことがあると回答した人で、避難判断のきっかけとなった情報は何か。（複数回答）



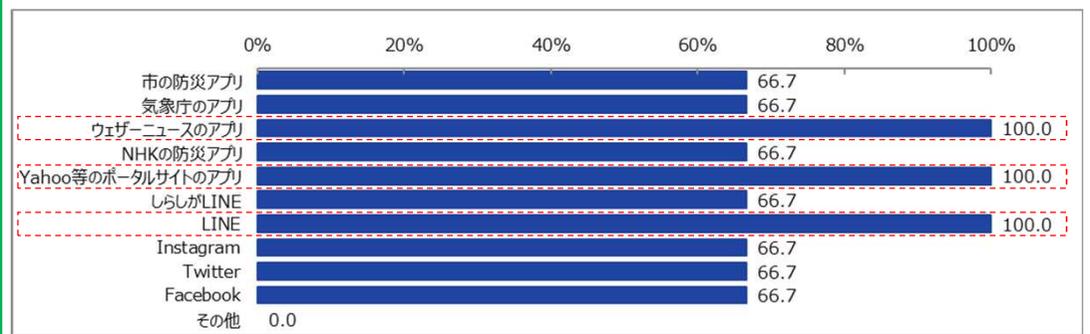
Q30 避難行動をしたことがあると回答した人で、情報を入手した方法は何か。（複数回答）



Q31 Q30(情報の入手方法)でインターネットのニュースサイト(Yahoo等)、インターネットの防災情報提供サイト(川の防災情報・自治体等)を回答した人で、具体的に利用したサイト名やサービス名は何か。（複数回答）



Q32 Q30(情報の入手方法)でスマホ等のアプリ(自治体アプリ、SNS等)を回答した人で、具体的に利用したアプリは何か。



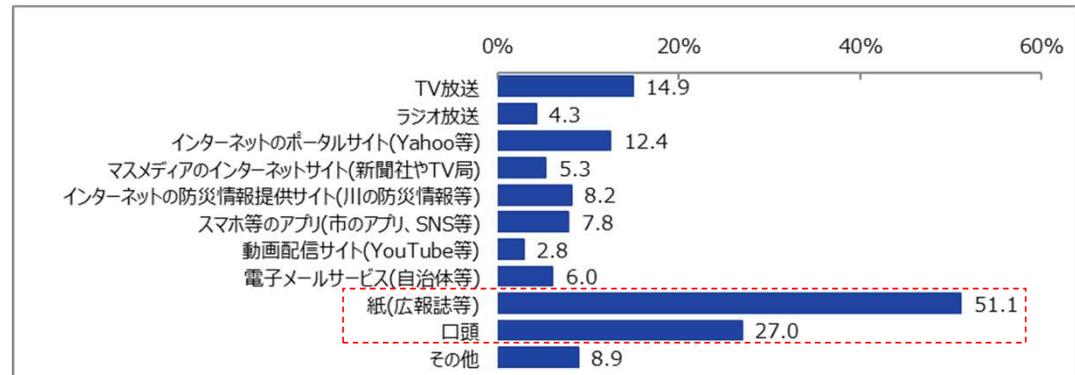
④防災活動への取組経験と行政活動の認知度

- Q33、Q35の結果より、活動をしていない人は約65%であり、その理由は「活動を行っていることを知らない」と「いつ、どこで開催しているか知らない」を合わせると約80%と多い状況である。
- Q34の結果より、活動をした人のうち、約51%が紙(広報誌等)、約27%が口頭である。平時の天気予報や気象情報の情報入手しているメディアはTVやインターネットが多い(Q4)が、ハザードマップは紙(広報誌等)で見た人が多い(Q16)ことから、気象情報以外の情報は広報誌等の紙媒体を利用している人が多いことが分かる。

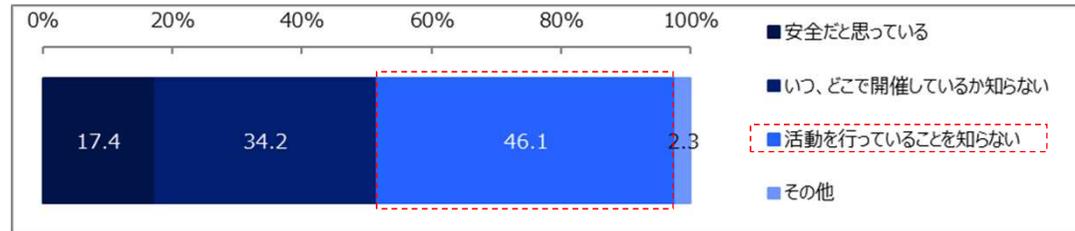
Q33 防災活動や減災活動で取組んだことのある活動は何か。(複数回答)



Q34 Q33で何らかの活動をした人は、その取組みをどのように知ったか。(複数回答)



Q35 Q33で活動はしていない人は、活動をしていない理由は何か。(複数回答)



④防災活動への取組経験と行政活動の認知度

- Q36の結果より、地域安全協議会の存在を知らないと回答した人は約81%で、存在は知っているが活動内容を知らないとの回答を合わせると約95%の人が地域安全協議会のことを知らない状況である。
- また、Q37の結果より、これまでに防災・減災活動に参加したことのない人のうち、出前講座への参加やマイ・タイムライン作成に参加したいとの回答は合計で約25%と少ない。
- 自然災害伝承碑（水害碑）の存在・目的のいずれかでも知っている人は約26%であり、テレビや現地で知った人が多い。

